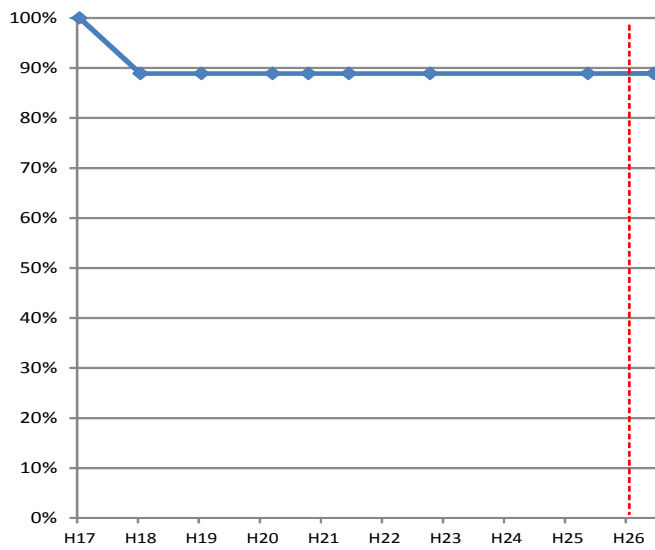


樹種名	ナナミノキ (別名: ナナメノキ)	
科目	モチノキ科	
学名	<i>Ilex chinensis</i>	
分布	モチノキ科の常緑高木で本州静岡以西から四国、九州の山地に自生する。国外では中国に分布する。	
樹木特性	半陰樹であり、常緑樹林やアカマツ林に生育する。	
用途	印鑑・櫛材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	9本 (他樹種との混植)	
特徴	<p>【樹形】 常緑高木で高さは10mに達する。 幹は直通で、灰褐色で樹肌はなめらか、葉は皮革質で目立った特徴がないが、若枝は緑色で稜(りょう)がある。 葉は厚く、長卵状楕円(だえん)形、長さ7~13cm、低い鋸齒(きょし)がある。 花は6月に開花し小さな花を咲かせ、葉腋(ようえき)から出た集散花序につき、淡紫色。雌雄異株である。 秋には果実を付け核果は球形、径約6mmで、赤く熟す。 材は器具材とし、樹皮からとりもちや染料を摂る。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、病虫獣害も特に見られず現存率、成長状況ともに良好である。植栽から9年が経過し、平均樹高は6m程度と順調に推移している。	
被害	特になし。	

ナナミノキ 現存率



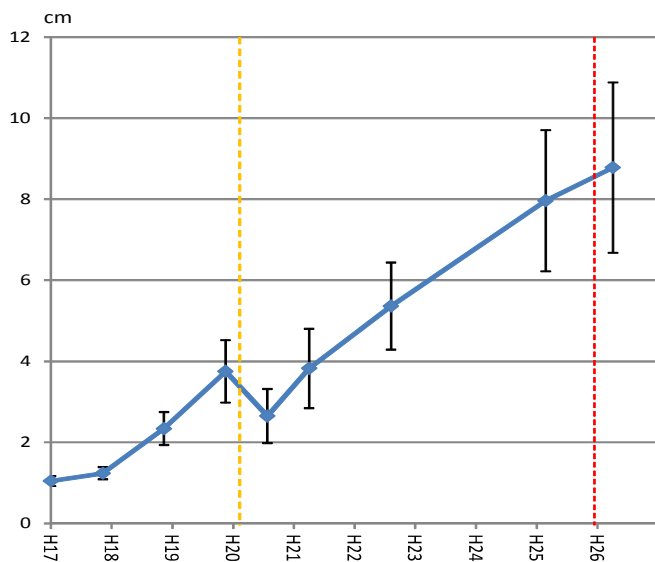
【現存率】

植栽後に1本が枯死した。
その後、枯死は発生しておらず良好である。
平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は88.9%であった。
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

順調に成長している。
平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は8.78cmであった。
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。
※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

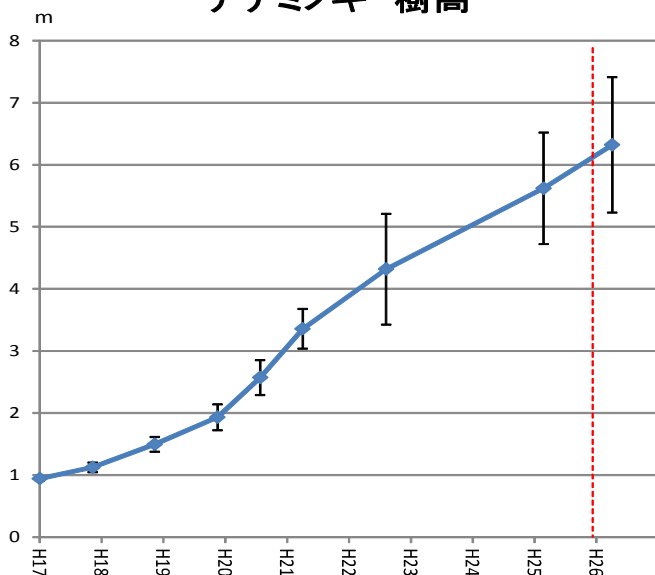
ナナミノキ 根元・胸高直径



【樹高】

植栽後、順調に成長している。
平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は6.32mであった。
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ナナミノキ 樹高



《プチ情報》

ナナミノキの由来にはいろいろな説がある。一説には、果実の形が長楕円形であり、他のモチノキ科の果実と比べ「長い」ことから、「長実の木」と言われ、それが転訛したとされる。

別名を「ナナメノキ」ともいうが、これは「ナナミ」が「ナナメ」に誤って変化したものだろう。実際にナナミノキの幹はふつうまっすぐ伸びる。しかし、その別名ゆえに「家がかたむく」と考えて庭木にするのを嫌う人もある。